

とうきょう すくわくプログラム活動報告書

施設番号	66-0781
施設名	鹿骨おひさま保育園
施設所在地	東京都江戸川区鹿骨2-23-1
法人名	社会福祉法人えどがわ

1. 活動のテーマ

<テーマ> 【3歳児ぱんだ組】

木

<テーマの設定理由>

(テーマに関する子どもの興味関心、園の特色など)

自然豊かな環境にある登園は日々、散歩や戸外遊びで自然に触れている為「木」はとても身近な存在。その木に興味を深め木で出来ている物・玩具に発展していく中で、子ども達が主体的に遊びを進めていけると考えた。木について興味を深め、遊びを発展させたい。

2. 活動スケジュール

4月 戸外で自然に触れ「木」に関心を持つ。木で出来ている身近な物や玩具に気付く。
10月 木の実・落ち葉・木登り等木に触れる。カプラ導入・熟年者交流会で体験する。
12月 子ども達へヒントや共有する楽しさを伝えられる様、カプラ園内研修を実施する。
木製玩具の導入/手触り・音・硬さ・色等の違いに気付く。
カプラと組み合わせてイメージを広げる。(積木・人形・動物・カタカタ等)
1月 戸外活動で改めて「木」を身近に感じ、気付きを大切にする。

3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

(活動のためにどのような環境を設定したか、準備した素材や道具)

- ・散歩では自然に興味を持ち、木の実や葉を持ち帰れるよう入れ物を用意。
- ・手触り、香り、音等楽しめるよう各部屋にカプラを配置(増量)。
- ・カプラを広げるスペースの確保(FS/ホール)。完成見本写真を用意。
- ・保護者周知の為プロジェクト、スクリーンを準備。HPやお知らせで周知。

4. 探究活動の実践

<活動の内容>

散歩先にて木に触れたり木登りに挑戦。木の枝を集めて遊ぶだけだったのがどンドン見立てて創造する力がついてきていて、BBQごっこやお料理ごっこに発展していった。友達と同じ物を使いながらイメージを共有する経験を重ねていった。カプラや木製玩具に触れ何から出来ているか、大きな「木」から出来ている事を伝えた。色・形が異なる物に触れる事で刺激を受けながら遊びに没頭していた。カプラの組立て方を、初めに伝えていたが徐々に自身で考え自由に遊びを広げていく姿が見られた。

<活動中の子供の姿・声、子供同士や保育者との関わり>

(活動の内容、活動中見られた子どもの姿、保育者との関わり等)

散歩先では登れそうな木を見つけると登りたいと保育士に手伝いを求める姿がある。自分で考えながら必要に応じ手伝いながら自身でやり遂げた達成感を感じられるようにしていった。カプラでは基本の立て方だけを知らせ保育士が実際に遊んで見せると自分達で考えながら大きく高く組立てたり道路のように並べてみたり「街を作ろう」という子どもの声をきっかけに大きな街づくりが始まることもあった。崩れて壊れてしまっても、もう1回作ろう、と楽しく作り直す姿があった。



5. 振り返り

<振り返りによって得た先生の気づき>

木製玩具を紹介する際に、素材について一緒に考えたり使い方について考えていった。他の玩具と違って木の玩具は乱暴に扱うと割れたり壊れたりしてしまう、という事を伝えた。その後子ども同士で「壊れちゃうからこうやって使うよ」等と声を掛け合う姿があり、子ども達で考えて教え合っていく姿に「物を大切に扱う」とう気持ちがあるかと実感できた。カプラでは一人が作り始めると何人もやってきて一緒にタワーを組立てている。保育士が入っていかなくても「こうするよ」「ここに置いて」等やりとりが繰り返され協調性やイメージを共有する力が身に付いたと思う。